

社会福祉法人 健和会

令和3年度 事業報告

● 法人本部報告

評議員選任解任委員会 令和3年5月15日開催

全評議員の重任が決定

1. 理事会・評議員会

第1回：理事会 令和3年6月5日開催

議案第1号 令和2年度事業報告

議案第2号 令和2年度決算報告及び監事監査報告

議案第3号 社会福祉充実財産の算定及び社会福祉充実計画の作成について

議案第4号 デイサービスセンター建て替え計画について

議案第5号 任期満了に伴う新理事新監事（案）について

その他 新型コロナウイルス感染症にかかる社会的検査の件

第1回：評議員会 令和3年6月22日開催

議案第1号 令和2年度事業報告

議案第2号 令和2年度決算報告及び監事監査報告

議案第3号 社会福祉充実財産の算定及び社会福祉充実計画の作成について

議案第4号 デイサービスセンター建て替え計画について

議案第5号 任期満了に伴う新理事新監事の選任について

議案第6号 評議員選任解任委員会の報告及び評議員の選任について

議案第5号 任期満了に伴う評議員選任解任委員会の選任について

その他 新型コロナウイルス感染症にかかる社会的検査の件

第2回：理事会 令和3年6月22日開催

議案第1号 新理事長の選出

議案第2号 評議員選任解任委員任期満了に伴う選任について

第3回：理事会 令和3年10月23日開催

議案第1号 令和3年度 第一次補正予算（案）について

その他 デイサービスセンター建て替え計画の進捗状況等

第4回：理事会 令和4年3月26日開催

議案第1号 令和4年度事業計画（案）について

議案第2号 令和4年度予算（案）について

議案第3号 デイサービスセンター定員変更（増）について

その他 デイサービスセンター建て替え計画の進捗状況

特定技能実習生の状況（来日等）について

2. 中期経営計画について

中期経営計画の1年目となる令和3年度は、まったく終息の目途が立たない新型コロナウイルスの感染状況により、後述するように、すべての計画が思うようにならない年度となってしまった。特に「地域社会との交流に向けた取り組み」については、地域住民・団体との交流促進を視野に入れて、地域イベントや、老人会等へのアプローチを行う予定であったが、感染予防の観点からほとんどの地域イベントは中止となったため、参加もできない状況であった。新型コロナウイルス対策については、感染予防に万全を尽くす職員の日々の奮闘により、クラスターなどは発生させずに今日に至っている。

3. 外国人技能実習生の受け入れについて

令和2年度よりミャンマーからの技能実習生の受け入れを計画していたが、ミャンマー国内での政情不安定や、新型コロナウイルスの再拡大による入国制限により、延期、再延期が繰り返され、残念なことに令和3年度においても、受け入れができずに終わった。

(※今年になりようやく来日の目途がつき、6月13日より先行して2名が着任している。)

4. 施設資源の活用について

今年度よりデイサービスセンター建て替え計画が新たにスタートした。デイサービスの建物も、完成後約20年となり、配管関係をはじめ各所が老朽化してきており修理も頻繁になってきていた。また、かつての在介センターや会議室を転用したり、浴室を増築したり、事務所を移設したりと改修を重ねてきたため、縦長構造で見守りが行き届きにくい構造になっていた。そこで、現在の建屋の北側に新しく立て直す計画が令和3年度よりスタート。また、既存のデイフロアは、地域に開かれた研修センターなどに活用する方向性も示された。

5. 法人直轄委員会の開催

(1) コンプライアンス委員会（構成員8名）

年12回開催

※コンプライアンスガイドラインに基づき、健和会職員が尊重すべき倫理・行動規範について定期的に話し合いが行われた。

(2) キャリアパス委員会（構成員9名）

年24回開催

※キャリアパス制度の確立に貢献するとともに、健和会の理念・ビジョンを常に考えて行動し、そのもとに立てられた中期経営計画に対し、部署横断的なチームとして施設全体を考える場とした。

6. 地域貢献

●地域貢献の一環として、東員町より委託された家族介護支援事業を実施した。

- ・目的：要介護高齢者を介護する家族等または介護が必要となりうる方々に対し、介護の知識や技術、用具に関する情報や、また軽度の運動や調理、医療情報などを提供することにより介護者の健康維持や身体的精神的な負担を軽減することを目的とする。
- ・対象：東員町内に住所を有する高齢者を介護している家族、近隣の援助者および家族介護に関心を持つ者。
- ・実績：令和3年度の実績は下記のとおりである。

実施日	テーマ・内容	講師	参加実績
8月5日	チェアヨガ	南川 逸美（インストラクター）	14名
9月15日	福祉用具教室	川端 祐也（福祉用具専門相談員）	中止
10月25日	オムツの教室	坂上田 紀子	12名
11月15日	多肉植物の壁掛け	伊藤 豊美	15名
1月14日	口腔ケア・口腔体操	鈴木 純子（歯科衛生士）	7名
2月16日	健康チェック	水谷 祐哉（理学療法士）	中止

コロナ禍の中、2度の中止もあって、参加人数は、感染の広がりがなかった前々年度の60名に比し、48名の参加に留まった。

●その他の取り組み

- ・東員町が行う認知症初期集中支援事業に職員を派遣した。
- ・東員町より地域リハビリテーション活動支援事業を請け負った。
- ・東員町より地域ケア会議支援業務を請け負い、会議に参加し助言等を行った。

1・令和3年度報告 特別養護老人ホーム・ショート介護部門

目 標	<p>1・地域、多世代との交流が出来るよう環境整備を行う。</p> <p>2・新たな事業の展開に供するため、安定した稼働率を維持し、財政基盤を確立する。</p> <p>3・家族と交流する機会を作る。また、利用者サービスの充実のため職員の知識、技術向上のための研修の開催実施、外部研修への参加を促す。</p> <p>4・キャリアパス制度を定着させる。 外国人技能実習生を定着させ、新たな雇用形態の検討を行う。</p>									
実 績	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="268 571 730 616">目標（値）</th> <th data-bbox="730 571 1343 616">実績（値）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="268 616 730 1003"> <p>1-① 地域との交流を促進するため、既存のボランティアの受入れを行うとともに、新規ボランティアを2件以上登録する。</p> <p>1-② 職場体験の受入れ担当者の育成と、マニュアルの作成を行う。</p> </td> <td data-bbox="730 616 1343 1003"> <p>コロナ禍の中、限られた活動となった。</p> <p>1-① 11月に朝明高校からインターシップを受け入れた。また朝明高校から、福祉の仕事に関する講演を依頼され請け負った。</p> <p>1-② 『中学生の職場体験』のプログラムおよび、職場体験の受け入れのマニュアルを作成した。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="268 1003 730 1391"> <p>2-① 財政基盤安定のため、特養稼働率99%、ショート稼働率60%以上、全体稼働率として94%以上とする。</p> <p>2-② 空き情報の発信や、施設の情報を提供することで、ショートステイの登録者数を現在の28名から40名とする。</p> </td> <td data-bbox="730 1003 1343 1391"> <p>2-① 最終実績は、 特別養護老人ホーム稼働率99.07% ショート37.2% 特養ショート全体で90.7%と目標を下回った。</p> <p>2-② 3/25現在、ショートステイの登録者数は39名と目標数値にやや届かず。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="268 1391 730 2007"> <p>3-① 家族との交流機会をつくるため、家族参加行事をする実施（1回/年）</p> <p>3-② 職員資質向上のため施設内研修の実施（5回/年）外部研修への参加（5件以上/年）</p> </td> <td data-bbox="730 1391 1343 2007"> <p>3-① 家族と直接関われる行事は、コロナ禍の中で開催は難しく、写真等を添えた近況報告の手紙を発送することとし、全入居者とはいかなかったが、年間を通じ46家族に郵送を行うことができた。</p> <p>3-② 施設内研修 ・食事形態と食事介助、食事姿勢 計6回、参加23名 ・排泄介助研修、計2回、参加14名 ・入浴介助研修、計3回、参加24名 ・褥瘡対策研修、計3回、参加27名 ・新人医務研修、1回</p> </td> </tr> </tbody> </table>	目標（値）	実績（値）	<p>1-① 地域との交流を促進するため、既存のボランティアの受入れを行うとともに、新規ボランティアを2件以上登録する。</p> <p>1-② 職場体験の受入れ担当者の育成と、マニュアルの作成を行う。</p>	<p>コロナ禍の中、限られた活動となった。</p> <p>1-① 11月に朝明高校からインターシップを受け入れた。また朝明高校から、福祉の仕事に関する講演を依頼され請け負った。</p> <p>1-② 『中学生の職場体験』のプログラムおよび、職場体験の受け入れのマニュアルを作成した。</p>	<p>2-① 財政基盤安定のため、特養稼働率99%、ショート稼働率60%以上、全体稼働率として94%以上とする。</p> <p>2-② 空き情報の発信や、施設の情報を提供することで、ショートステイの登録者数を現在の28名から40名とする。</p>	<p>2-① 最終実績は、 特別養護老人ホーム稼働率99.07% ショート37.2% 特養ショート全体で90.7%と目標を下回った。</p> <p>2-② 3/25現在、ショートステイの登録者数は39名と目標数値にやや届かず。</p>	<p>3-① 家族との交流機会をつくるため、家族参加行事をする実施（1回/年）</p> <p>3-② 職員資質向上のため施設内研修の実施（5回/年）外部研修への参加（5件以上/年）</p>	<p>3-① 家族と直接関われる行事は、コロナ禍の中で開催は難しく、写真等を添えた近況報告の手紙を発送することとし、全入居者とはいかなかったが、年間を通じ46家族に郵送を行うことができた。</p> <p>3-② 施設内研修 ・食事形態と食事介助、食事姿勢 計6回、参加23名 ・排泄介助研修、計2回、参加14名 ・入浴介助研修、計3回、参加24名 ・褥瘡対策研修、計3回、参加27名 ・新人医務研修、1回</p>	
目標（値）	実績（値）									
<p>1-① 地域との交流を促進するため、既存のボランティアの受入れを行うとともに、新規ボランティアを2件以上登録する。</p> <p>1-② 職場体験の受入れ担当者の育成と、マニュアルの作成を行う。</p>	<p>コロナ禍の中、限られた活動となった。</p> <p>1-① 11月に朝明高校からインターシップを受け入れた。また朝明高校から、福祉の仕事に関する講演を依頼され請け負った。</p> <p>1-② 『中学生の職場体験』のプログラムおよび、職場体験の受け入れのマニュアルを作成した。</p>									
<p>2-① 財政基盤安定のため、特養稼働率99%、ショート稼働率60%以上、全体稼働率として94%以上とする。</p> <p>2-② 空き情報の発信や、施設の情報を提供することで、ショートステイの登録者数を現在の28名から40名とする。</p>	<p>2-① 最終実績は、 特別養護老人ホーム稼働率99.07% ショート37.2% 特養ショート全体で90.7%と目標を下回った。</p> <p>2-② 3/25現在、ショートステイの登録者数は39名と目標数値にやや届かず。</p>									
<p>3-① 家族との交流機会をつくるため、家族参加行事をする実施（1回/年）</p> <p>3-② 職員資質向上のため施設内研修の実施（5回/年）外部研修への参加（5件以上/年）</p>	<p>3-① 家族と直接関われる行事は、コロナ禍の中で開催は難しく、写真等を添えた近況報告の手紙を発送することとし、全入居者とはいかなかったが、年間を通じ46家族に郵送を行うことができた。</p> <p>3-② 施設内研修 ・食事形態と食事介助、食事姿勢 計6回、参加23名 ・排泄介助研修、計2回、参加14名 ・入浴介助研修、計3回、参加24名 ・褥瘡対策研修、計3回、参加27名 ・新人医務研修、1回</p>									

		<p>施設外研修（WEB 含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リーダーシップ研修、2回、参加2名 ・クレーム対応研修、3回、参加4名 ・感染対策研修、1回、参加3名 ・給食施設管理研修、1回、参加1名 <p>参加できなかった職員へは伝達研修</p>
4-① 目標の設定およびフィードバック面談を行う。	4-① キャリアパス制度に基づく、目標設定、面談、評価を行った	
4-② 特定技能実習生の配属6ヶ月後には、一般の職員と同様の業務ができるよう指導を行う（夜勤は1年経過後）	4-② 特定技能実習生の来日の目途が令和3年度は立たずに終わる。事前準備として、指導時に使用する用語を統一するとともに、介護用語の意味が分かるよう使用頻度の高い用語をピックアップし一覧表を作成した。	

2・令和3年度報告 特別養護老人ホーム・ショート看護部門

目 標	<p>1・地域住民に、自身や家族の健康に関心を持っていただく。</p> <p>2・高齢者の脆弱な機能の改善に貢献するとともに、薬品依存を少しでも減らす取り組みを行う。</p> <p>3・家族との連携や職員のスキルアップも含めた、一貫した看護支援体制を構築する。</p> <p>4・自己研鑽により、自己実現への努力を惜しまない人材を育成するとともに、個々の職員の能力に見合った適正な評価を行う。</p>	
	目 標 (値)	実 績 (値)
実 績	<p>1-① 地域住民を対象に施設見学会を実施する 1回/年</p> <p>1-② 認知症講座、健康寿命を延ばす勉強会・運動指導の実施 1回以上/年</p>	<p>1-① コロナ禍にて施設見学会は困難にて、医務から健康便りを発信開始。年間4回各シーズン毎に発信した。</p> <p>1-② 東員町主催、家族介護教室で健康寿命を延ばす研修会を開催予定していたが、調整できず、令和4年度8月に開催予定。 テーマ『医食同源』</p>
	<p>2-① 温泉を利用したケアを模索し、乾燥による表皮剥離件数を昨年より1割減にする。</p> <p>2-② 利用者の運動量をアップさせることで、下剤使用人数を昨年より1割減に、睡眠薬使用人数を昨年より1割減にする。</p>	<p>2-①剥離件数 R.2年度：23件 R.3年度：15件 目標達成</p> <p>2-② 臨時の下剤使用を1週間中止し、個々の排便状況を確認することで個別対応に着手した。個々の状況にあった下剤使用を試み、下剤使用率を減少させることができた。睡眠薬については入所前からの内服量の維持にとどまった。入居後の増量は無し。</p>

<p>3-① 看護理念に基づいた行動を起こすことで、部門内の方向性を統一し、一貫した看護の展開を目指す。急変を未然に防ぎ緊急搬送件数7件以内を目指す。(前年度比較)</p> <p>3-② 家族との情報共有が出来なかったことに起因するクレームを年間3件以内にする。</p>	<p>3-① 特養における救急搬送件数：3件 ショートステイ利用者：1名 内訳：海南病院1件・桑名総合医療センター1件・いなべ総合病院2件</p> <p>3-② 家族からのクレームは0件であった。面会不可の中であるからこそ、状況変化を敏感に察し、家族へ報告（必要時動画やデータをもとに発信することで、ご理解いただき、円満な関係性が維持できたと考える。</p>
<p>4-① 医療情報トピックス発行1回/月 医務研修の開催2回/年 外部研修参加4回/年</p> <p>4-② 日進月歩を目標に職員自らのスキルアップに努める。日々、何かしらの収穫を得ることに注力し、朝礼で順番に発信する。知識を仲間と共有する。(1日1人1分以内で発信)</p>	<p>4-① 医療情報トピックス発行月1回達成 医務研修：新人研修開催 外部研修参加：0 コロナワクチン接種の準備、実施に時間を必要とした為、計画通りとならなかった。</p> <p>4-② 開始2か月ほどは継続できたが、業務多忙となり時間的に継続困難となったため、スキルアップファイルに変更。情報共有した。部門目標は、始業前に唱和することとし、現在も継続実施できている。</p>

3・令和3年度報告 デイサービス部門

<p>目標</p>	<p>1・地域住民との交流促進のため、新規のボランティアの受け入れを図る。また地域イベントへの参加を行う。</p> <p>2・天然温泉や敷地を活用した新しいデイサービスセンターの開設に向けた準備を進めるとともに財政基盤を確立する。</p> <p>3・利用者満足度向上に向けて、職員一人ひとりのスキルアップのための研修参加を促す。また、家族参加型の行事を開催する。</p> <p>4・人材育成のための人事考課制度を定着させるとともに、魅力のある働きやすい職場環境をつくる。</p>	
<p>実績</p>	<p>目標(値)</p> <p>1-① 近隣の市町村からのボランティア受入れ(月1回以上) 新ボランティア3件登録する(月1回以上)</p>	<p>実績(値)</p> <p>1-① ボランティアの受け入れは新型コロナウイルス感染予防のため、中止とした。代わりとしてインターネット配信によるレクリエーションを3回/年、取り入れた。</p>

	1-② 東員町イベントに参加する (1回以上/年)	1-② 東員町内のイベントもコロナ感染予防のためすべて中止となり参加はなかった。
	2-① 温泉資源やリハビリ機器を活用した設備計画を立案する	2-① 令和5年完成予定の新築デイサービスに取り入れるリハビリ機器の選定や施設内の設備等の検討を行った。
	2-② 財政基盤を確立するため、稼働率を95%以上維持する。	2-② 年間平均の稼働率は95.3%となり、目標数値以上を達成できた。年間平均利用者数も33.3人/日となった。
	3-① 各専門の職務内容に合致する外部研修に参加する。 (1回以上/1人) 3-② 家族参加型の行事実施 (1回/月) 食事、リハビリの見学会 (1回/6ヶ月)	3-① 高齢者疑似体験3回 6人参加 感染症研修3回 10人参加 コミュニケーション技術2回 6人参加 外部研修 コグニサイズ研修 1/21 コミュニケーション技術 11/22 感染対策研修 12/15 ネット (ZOOM) による外部研修 生活支援におけるチームアプローチ 3/15 排泄研修 3/4 3-② 新型コロナウイルス感染予防のため、すべて中止とした。
	4-① 目標の設定およびフィードバック面談を行う。 4-② ホームページブログ欄やデイだより等で、デイでの行事や取り組みなどを、定期的に情報発信する。(1回以上/月)	4-① キャリアパス制度に基づき、令和3年度の個人目標を設定し適切にフィードバックを行った。 4-② ホームページのブログは年9回更新。デイだよりは、毎月発行し、行事や取り組み内容を定期的に情報発信することができた。

4・令和3年度報告 バーデハウス東員部門

目 標	<p>1・入居者と地域住民との交流や多世代交流ができるような環境整備を行う。</p> <p>2・入居者の健康増進のため温泉資源等を活用するとともに、新たな事業の展開のため安定した稼働率を維持する</p> <p>3・入居者のご家族に生活の様子を知ってもらえるよう情報発信することで、交流と連携強化、満足度の上昇を図る。</p> <p>4・人材育成のための人事考課制度を定着させるとともに、サービス充実に向けた職員の質の向上を図る。</p>
--------	--

	目標（値）	実績（値）
実績	1-① 近隣の老人会やイベントに1回/年参加する。	1-① 新型コロナウイルス感染予防のため、老人会イベント等への参加はかなわなかったが、自治会長と災害時の対応について話し合いをしたり、地域清掃作業協力の打ち合わせ等を行い信頼関係を構築できた。
	1-② 地域の高齢者を対象にした行事を1回開催する。	1-② 新型コロナウイルス感染予防のため、すべて中止とした。
	2-① バーデ通信やパンフレットの定期的な郵送を、月50ヶ所行う。ホームページや検索サイトの更新を月1回行う	2-① 毎月ホームページや検索サイトの更新を行うとともに、定期的に50ヶ所以上の事業所にバーデ通信やパンフレットの郵送を行い、施設PRができた。
	2-② 入居者の健康増進のため足湯とパークゴルフ場の整備を月1回以上行うことで、利用できる環境を整える。	2-② パークゴルフ場の整備はある程度進んだが、雑草の生育に除草作業が追い付かなかった。足湯については感染予防の観点から現在も利用中止中である。
実績	3-① 家族参加型行事実施 1回/年	3-① 9/4 お好み焼き(昼食) 9/11 花火大会 12/24 クリスマス会実施。コロナ禍の中、外出行事はほとんどできず、花壇や野菜作りを行った。
	3-② 写真や手紙で近況報告を行う 2人以上/月	3-② 写真や手紙での近況報告については、コロナ禍で実施イベントも乏しく、目標人数を達成できなかった。
実績	4-① 主任との面談 1回/月 パート職員との面談 2回/1人	4-① 主任との面談は1回/2か月にとどまった。パート職員との面談も全員に2回はできなかった。
	4-② 外部研修、施設内研修の参加 1回/1人	4-② 外部研修 救急法基礎研修 12/4 感染対策研修 12/15 施設内研修 高齢者疑似体験 11/13 4人参加

5・令和3年度報告 居宅介護支援部門

目標	<p>1・地域住民との交流促進を図る。</p> <p>2・天然温泉や敷地を活用した新たな事業開設に向けた、情報収集を行う。</p> <p>3・新規利用者、困難ケースの情報共有を深め、支援体制を強化する。 また、他機関の情報収集及び交流を行う。</p> <p>4・研修に参加し知識を増やすと共に、伝達研修を行うことで説明力を磨く。</p>
----	--

	また、事例検討会を実施し、チームのサポート体制を整える。	
実績	<p>目標（値）</p>	<p>実績（値）</p>
	<p>1－① 老人会、地域カフェに年6回参加する</p> <p>1－② 家族介護者教室を年6回開催する。</p>	<p>①地域住民団体との交流促進のために地域カフェやサロンでの交流を図り、顔の見える関係づくりを行う。</p> <p>②東員町の委託事業である「家族介護教室」を年4回開催し、コロナ禍において感染予防しながらコミュニケーションを図る事が出来た（2回はコロナの影響で中止）</p>
	<p>2－① 地域の求めるニーズや先進的な取組等をリサーチし、法人本部に報告書を提出する。（月1回）</p> <p>2－② 地域カフェを年2回開催する。</p>	<p>① 家族介護教室にて、アンケートを実施。地域の新しいサービス事業所の取り組みをリサーチし、施設内で情報共有を行う。保険者や社会福祉協議会、地域包括支援センターへ施設の取り組みについてPRする</p> <p>②コロナウイルス感染状況から施設としてのカフェ活動は開催を控えた。</p>
	<p>3－① 支援体制を強化することで、困難ケースも含め30名以上の給付管理数を維持する。</p> <p>3－② 退院時情報連携加算、入院連携加算を取得する。</p>	<p>① 困難ケースについては部署内での同行訪問や地域包括との連携を図りながら対応した。常勤、月平均32, 5件 非常勤21件のケースを管理し、目標を達成する。隣接する市町からの依頼も増えている。</p> <p>② 退院、入院連携は滞りなく実施できた。</p>
	<p>4－① 一人年4回以上研修に参加</p> <p>4－② 事例検討会を行いチーム力を高める（月1回）</p>	<p>① 主にウェブでの研修を年4回以上参加し、各々自己研鑽に努め、研修内容については情報共有を行った。</p> <p>② 新規ケース、困難ケースの事例検討を部署内、地域ケア会議などで発表、相談する事で支援の強化に繋げることができた。また、居宅チームとして既存のサービスを繋ぐだけでなく、家族教室を計画及び実施することで、活動の幅を広げている。</p>